

# 「研究大学強化促進事業」中間評価 進捗状況概要 東北大学

**目的** 国際社会でリーダーシップを発揮してトップクラスの研究を牽引し、社会を変革するイノベーションの先駆者となるために、東北大学を中核とした**“人が集い、学び、創造する、世界に開かれた知の国際共同体”**の形成を目指す

## 強化方針 I 研究戦略の明確化

URA体制を充実、本学研究力を分析し研究戦略を立案支援、ベンチマーク大学選定

## II 国際共同体の形成

訪問滞在型研究センター「東北大学知のフォーラム」を設置、運営

## III 将来のグローバル・リーダー育成

若手研究者が中長期海外の研究機関へ滞在、国際共同研究を格段に増加

## IV 国際水準キャンパスの整備、事務の国際化

訪問滞在研究者の支援を行う「リサーチ・レセプションセンター」等を整備し、事務国際化を加速

### これまでの実績・取組

#### URAによる研究力強化

- URAを充実させ（36名配置）、新規データベースによる学内**研究分析体制を構築**
- 広義の**ベンチマーク校**を国外から計25校選定（ベンチマーク校6校、海外連携校19校）
- 本学内に、国内外の研究動向を調査・分析するユニットを構築。**国内外の競争的資金獲得等強化（COI、出資事業、SIP、ImPACT等）**に向け、企画支援・情報発信・学内支援・啓蒙活動を強化
- 世界大学ランキングの向上に向けた対策実施**

#### I 研究戦略の明確化

- 訪問滞在型研究センター「**東北大学知のフォーラム**」を設置（平成25年度）
- 国際公募により今までに11プログラムの計画、実施。平成28年度参加者数約**2,000名**。
- ノーベル賞受賞者12名、フィールズ賞受賞者3名**の招聘を実施
  - 世界トップクラス研究者が滞在、若手研究者と共に白熱した議論を展開
- ノーベル賞級研究者を対象とした人事制度、「**特別招聘プロフェッサー制度**」等新設
- 「**東北大学高等研究機構**」を設置（平成26年度）
- 世界最高水準の研究者が集結**する優れた国際的研究環境等を構築し、新しい学術分野を創出することを目的とする。→学内リソースの結集・最適化も視野

#### II 国際共同体の形成

#### III 将来のグローバル・リーダー育成

- 若手**リーダー研究者海外派遣プログラム**（40名派遣）により、
  - 原則6月以上の派遣期間、ベンチマーク校への派遣の実施。
  - 国際共同研究・国際共著論文増加の推進、海外ネットワーク構築の推進
- 若手研究者向け**英語プレゼン事業「Falling Walls Lab Sendai」**を開催
  - 東アジア地域初の予選会場であり、ベルリンにて本選。他大学からも複数名参加
- URA・学内教員による**大型研究プロジェクト獲得支援**
  - 科研費等応募申請に係る支援体制を構築、「**挑戦すること**」を支援
- 本学学際科学**フロンティア研究所**における若手研究者国際公募
  - 4年間で、57名採用（スーパー・助教等）。異分野融合による学術研究を開拓・推進

#### IV 国際水準キャンパスの整備、事務国際化

- 訪問滞在研究者の支援を行う「**国際事業推進室**」設置
  - WPI-AIMR、知のフォーラム、高等研究機構においてサポート実施中
  - 中長期滞在する外国人研究者向け生活環境等支援体制の全学的波及を推進
- 事務職員の英語力の向上、事務手続きの英語化**
  - シドニー大学等への海外研修、沖縄科学技術大学院大学へのOJT研修実施
  - 事務手続き様式の英語版、英文メール・レター文例集などの補助資料を作成
  - 全事務職員のTOEIC受験（平成26年度から3年以内）を、原則義務化

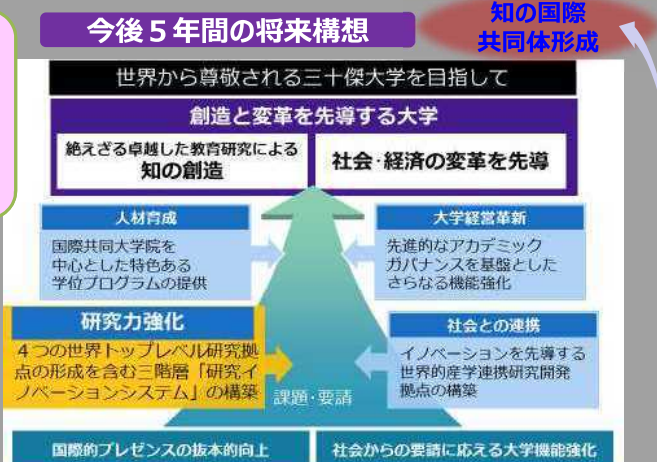
#### Aメニュー

- URA制度の充実
- URA連携協議会による学内相互連携
- 重点化スキル、スキル育成コースの設定とスキルアップセミナーの実施
- 職階制度の策定

#### Bメニュー

#### 今後の方針

- ★以下の点を強化しつつ、引き続き4つの研究力強化方針に沿った達成目標、研究力強化方針に基づく取組（A、Bメニュー）を強力に推進
- 研究IR機能を中心としたIR機能の統合化と戦略性の明確化**
  - 総合的なデータ分析に基づくエビデンスをガバナンス戦略（資金配分等）に活用
- URA組織の恒常化・全学的ネットワークの強化、キャリアパス形成促進と安定雇用確保**
- 三階層「研究イノベーションシステム」の構築による高等研究機構の拡充**
- トップダウン型トップクラス研究者招へい国際頭脳循環「知のフォーラム」の開催**
- 重点研究領域を反映させたベンチマーク校への若手研究者の派遣等戦略的連携**
- リサーチレセプションセンター機能の全学的展開（事務国際化の強化）**
- WPIアカデミーとの連携 → 他大学WPIとのネットワーク強化**
- WPI-AIMRで培った国際頭脳循環体制を自主財源等で拠点の拡大**
- 海外リサーチ・ステーションの設置を推進することで海外連携体制の本格展開**



### 今後5年間の将来構想

知の国際  
共同体形成

中間評価結果	
評点区分: S	
全体に対する所見	
当初構想を着実に遂行するとともに、大学全体の機能向上に向けて積極的に取り組み、今後の発展が十分に期待できる将来構想が構築されており、事業終了後の財源についての目標も明確なものとなっているなど、高く評価できる。	
当初構想・計画の進捗状況に対する所見	
URA の職務内容・処遇を制度上明確に規定することで、執行部や研究者との信頼関係が順調に醸成されており、独自のスキル標準化による高度化への取組も行われている。ベンチマーク大学との連携による国際交流が順調に進捗している。	
今後5年間の将来構想に対する所見	
三階層「研究イノベーションシステム」を構築することで、システムティックな研究推進体制が期待され、研究力強化の取組を明確に具体化している。国際混住型学生寮の設置によって国際交流が進展することを期待したい。	